

カンキツにおけるチャバネアオカメムシに対する各種薬剤の防除効果

和歌山県果樹試験場

1. 目的

2023年秋季に県内各地域でチャバネアオカメムシが多発し、被害が問題となった。そこで、本種に対する各種薬剤の防除効果を明らかにし、防除の基礎資料とするために試験を行う。

2. 方法

- 1) 供試樹：田口早生、15年生
- 2) 供試薬剤：図1のとおり
- 3) 散布日：2023年9月26日
- 4) 散布方法：供試薬剤を所定の希釈倍数に調製し、動力噴霧機を用いて1樹あたり約5L散布した。
- 5) 供試虫：2023年9月26日、10月2日に果樹試験場内のウンシュウミカンほ場よりチャバネアオカメムシを採集し、室内で落花生の種子を与えて飼育した。
- 6) 放虫：薬剤散布1、4、7日後に任意の枝をタマネギネットで覆い、その中に区あたり10頭放飼した。
- 7) 調査日：各放虫日の3日後（9月30日、10月3日、10月6日）
- 8) 調査方法：調査日に供試虫の生死を調査した。つついて正常に歩行する個体を生存、正常に歩行しない個体を苦悶、全く動かない個体を死亡とし、補正死亡率を算出した。苦悶は死亡に含めた。
1区1樹3反復で行った。

3. 結果の概要

- 1) 試験期間中は少雨条件で推移した（表1）
- 2) スタークル顆粒水溶剤は散布7日後放虫まで効果が認められ、吸汁抑制効果も高かったことから、今回供試した薬剤のうち、最も有望であった（図1）。

表1 試験期間中の気象条件

月日	9月26日	9月27日	9月28日	9月29日	9月30日	10月1日	10月2日	10月3日	10月4日	10月5日	10月6日
平均気温 (°C)	23.8	25.1	26.3	25	24.9	22.6	19.9	20.5	21.4	19.7	18
降水量 (mm)	0	0	0	0	0	3	0.5	2	4	0	0

観測地点：果樹試験場内

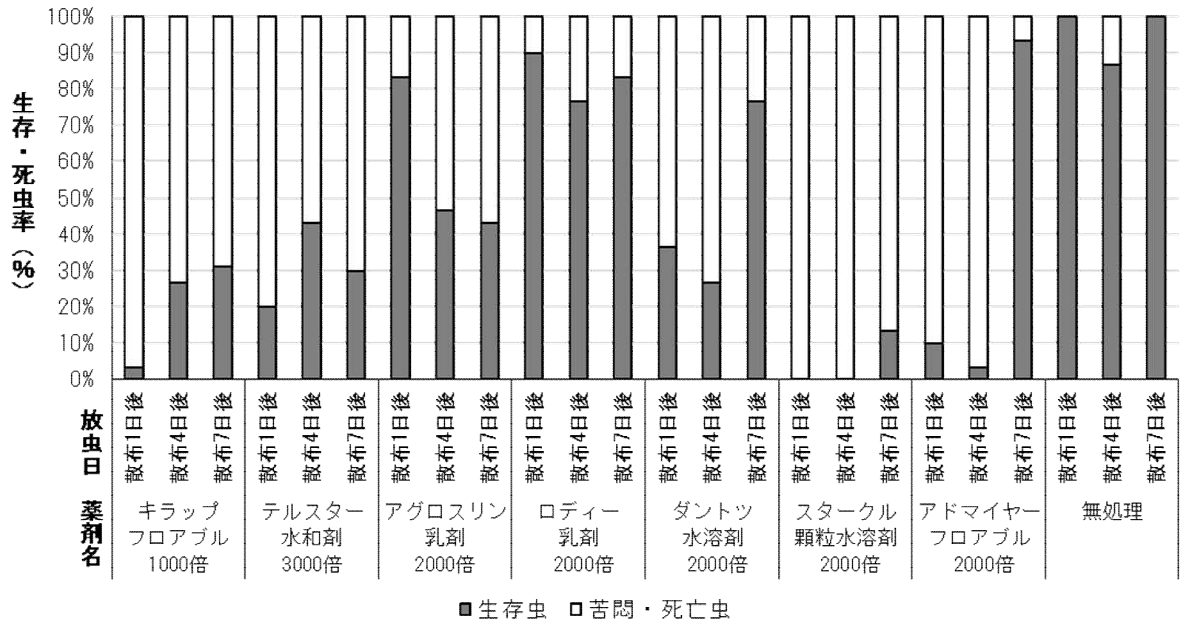


図1 チャバネアオカメムシに対する各種薬剤の防除効果